

漁海況旬報

14 - 14

ちば

平成14年5月15日発行
千葉県水産情報通信センター
千葉県水産研究センター

かじき類の水揚量のまとめ

本県のかじき類を対象とする漁業は、かじき縄（はえ縄）、曳縄、突きん棒、流しさし網です。また、銚子港には小型まぐろはえ縄船（外来船）が水揚げします。今回は沿岸小型船の重要漁業であるかじき縄と銚子港に入港する小型まぐろはえ縄の水揚げ状況をお伝えします。

1. かじき縄

かじき縄は5～10トンの漁船を用いてマカジキを対象とするはえ縄です。漁期は主に11～3月で、房総半島沖合50～80マイル付近で操業しています。

今漁期は例年より1か月ほど早い10月下旬から操業しました。主要2港の10～4月の水揚量は36.2トンで過去10年平均76.2トンを大きく下回りました（図1）。C P U Eは60kg/日・隻前後で推移し、過去15年平均を下回りました（図2）。

なお、今漁期はクロカジキが16トン勝浦港に水揚げされました。過去15年平均で1.2トンであり、特異的な漁獲となりました。

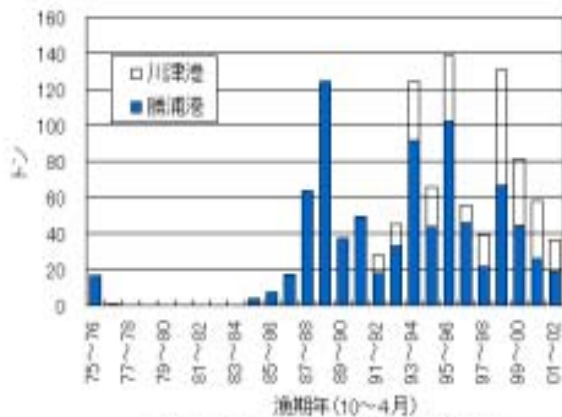


図1 マカジキの漁期年別水揚量(かじき縄)

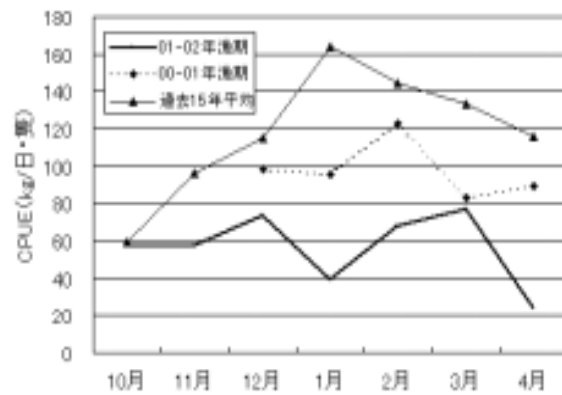


図2 マカジキの月別CPUE(かじき縄)

2. 小型まぐろはえ縄

小型まぐろ延縄は19トンの漁船を用いて主にビンナガを対象とするはえ縄で、かじき類は混獲物です。銚子港への入港は、主に9～3月で北緯33～40°，東経142～160°付近（房総半島から200マイル以上沖）で操業しています。

今漁期（7～4月）のかじき類の水揚量は618トン（マカジキ266トン，メカジキ184トン，クロカジキ167トン，シロカジキ1トン，バシヨウカジキ0トン）で過去10年平均1,294トン（マカジキ449トン，メカジキ512トン，クロカジキ324トン，シロカジキ5トン，バシヨウカジキ4トン，7～6月集計）を大きく下回っています（図3）。マカジキの月別水揚量は、10月まで過去10年平均並に推移しましたが、11月以降は下回りました（図4）

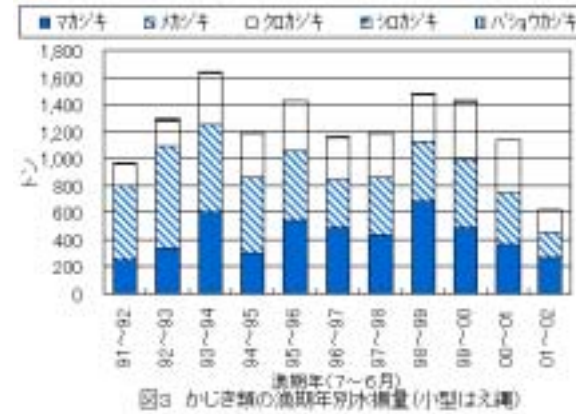


図3 かじき類の漁期年別水揚量(小型はえ縄)

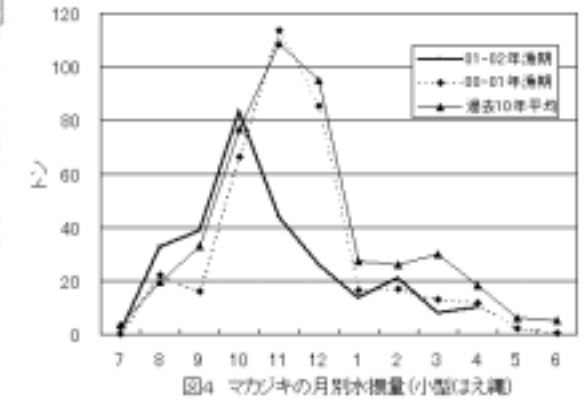


図4 マカジキの月別水揚量(小型はえ縄)

3. なぜ？かじき縄が不漁になったのか

1986年頃から本格的にかじき縄の操業が始まりました。C P U Eは5年周期で3回増減を繰り返しており、現在は下降期にあります（図5）。また、小型はえ縄によるマカジキの漁獲量の推移は、かじき縄のC P U Eの推移と概ね一致しており、現在は同様に下降期です。このことから沿岸、沖合域ともに来遊状況は低調であり、このことが不漁の原因と考えられます。

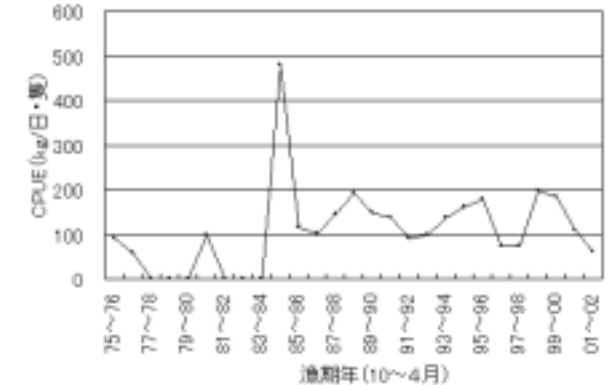


図5 マカジキの漁期年別CPUE(かじき縄)

また、今漁期は常磐沖で黒潮続流が北偏していたので、漁獲量に影響があるか検討しましたが、関係はありませんでした。